

大丸有地区の屋外アメニティ空間における温熱環境と利用状況の調査

1. 榊竹中工務店 2. 日本工業大学
安藤邦明¹ 西田恵¹ 三坂育正² 成田健一²

キーワード

①屋外温熱環境

②利用状況

③緑陰

[梗概]

人の利用状況に及ぼす温熱環境や空間構成要素の影響を評価することを目的として、大丸有地区の屋外アメニティ空間を対象とした調査を行なった。屋外アメニティ空間は樹木を効果的に配置し緑量を確保しているため、都道よりも気温の平均値が最大で2℃程度低いことが分かった。また利用スペース付近は緑陰によって良好な微気象が形成されている場所が多く、夏季であっても積極的な利用が確認できた。そこで、温熱環境と利用状況の関係を把握した結果、夏季における屋外利用には日射量が100[W/m²]以下であることが望ましく、1[m/s]程度の微風が必要であることが定量的に把握できた。さらに、秋季に比べると夏季は許容できる環境の幅が広く、暑さに馴化していることが推測できた。調査結果を受け、屋外空間の有効利用が多様なワークスタイルやライフスタイルを実現し、今後の低炭素社会における新たな解決の一手となる可能性を秘めていることを示唆した。